

令和4年度 第4回南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会
議事録（要旨）

日 時	令和4年12月5日（月） 14：00～16：00	場 所	市役所本庁3階 大会議室
出席者	<p>委 員：佐藤文昭委員長、大山勲副委員長、佐々木邦明委員、坂口裕昭委員、小池直己委員、花輪進委員、野田清紀委員、中込卓也委員、齊藤陽一委員、手塚美砂子委員、村松廣義委員、名取春樹委員、佐藤寛委員、中辻伸委員、横山瑞法委員</p> <p>事務局：南アルプス市総合政策部 櫻本竜哉部長 南アルプス IC 新産業拠点整備室 野田剛理事、中込光司主幹、金丸周平主査</p> <p>山梨総合研究所：廣瀬友幸主任研究員</p>		
<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 土地利用方針について (2) 土地利用区分について 4 その他 5 閉会 <p><以下、議事録>（議長：佐藤委員長）</p> <p>議題（1）土地利用方針について</p> <p>議題（2）土地利用区分について</p> <p>一括して、事務局より資料「前回までの振り返り」「第4回 南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会資料」にて説明。</p> <p>【各委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県等でヤマハが自動収穫機を開発している。南アルプス市でも、ラボや実証実験農地を整備し、そこにベテラン農家が参加するというのはどうか。今後、自動化が進んでいっても、保守やメンテナンスの人材は必要であるため、人材育成の場も必要である。企業には農業のマーケティングから販売のブランディングにも協力してほしい。エネルギーに関して、ハウス栽培では、温泉を活用した熱利用も考えられる。 ・P.2,3については概ねこの方向で進めてほしい。防災面で好立地であることを企業に発信した方がいいのではないかと。現時点でも道路渋滞があるため、住民への迷惑がかからないよう、現状の道路の車線増幅も必要ではないかと。 ・甲西バイパスから環状道路の交通は問題ないと思うが、西側は1車線となるため、交通問題が発生する恐れがある。地区内道路だけでなく、市街地へのアクセスをどうするのか考える 			

必要もある。南アルプス IC を玄関口と位置付けるのであれば、観光に関するネットワークも検討すべき。

- ・ P.2,3 についてはこの方向でよいので、スピーディーに進めてほしい。
P.8 の道路ネットワーク条件として若草地区には生活利便施設が多数立地しているとの記載があるが、そこを利用して住宅地を構成するということか。産業地と住宅地を形成する中で明確に地域区分をすべきである。
- ・ IC 周辺の土地利用は、おおむね物流、産業、商業が主流である。本構想でも同じようなことをするのか、
防災面の強さや交通便を考える中で、どのような活用がいいのか、うまくまとまっていない。
- ・ 郊外の IC 周辺は、市街化調整区域や農業振興地域であるなど制限があり、住居系の土地利用としたりでもできない所が多いが、南アルプス IC は中部横断道とリニアの駅まで車で 10 分という好立地であることから、新しいライフスタイルをする人を取り入れる可能性がある。そのため居住エリアを設けるものと受け止めた。ゾーニング図面は流動的である。
- ・ いままでの議論では、農業をテーマにした話があり、面白く聞いていた。農業に特化するなど尖ったもの、特色を出す計画とするつもりはあるのか。
- ・ 南アルプス IC から農業を除外しようと読めてしまう。また、この資料を見た時に、あらゆる可能性は残っているが、逆に何をしたいのかが分からない。
- ・ ゾーニングには、農や緑が身近にある豊かな暮らしを実現する土地利用とあるが、ここの農の意味合いは何か。
- ・ 住民の仕事や暮らしの要素が取り上げられていない中で、白根 IC は現状の認識、南アルプス IC は、新たにどのようにするのかという視点での記載であり、それぞれの役割が同じステージに立っていない。本市の魅力は自然と農であると感じている。資料では、暮らしと産業の 2 つにゾーニングされているが議論がされていない。そのみでなくオープンに色々と混じっていていい。
- ・ 農業を中心に考え、そこから物流業などが派生していくものと考えていた。将来的にどうなるのか分からないが、あくまで何を中心に考えて、そこに何を付加するのか。企業が来て、それを付加する教育や住宅設備などの説明があると思っていた。
- ・ 南アルプス IC で集客した人を白根 IC に繋いでいくべきだと思うが、直売所があるもののこの約 4km という距離は現実的に移動しないと考える。南アルプス IC において、一番のアピールポイントである農業や自然といったものを白根 IC と役割分担しながら、どのような形で繋げていくかを具体的に示してほしい。
- ・ 北海道のいちご農業の例として、スーパーゼネコンが稼げる農業、時期をずらした生産をしている。また、地域生産者等と技術交流を図り、共に技術を高めるとともに普及と拡大に新たな担い手の育成をするというコンセプトを掲げている。現在、南アルプス市では、シャインマスカットによるふるさと納税の収入が多い。関連した事業の創出や企業の増加なども考えられる。IC 周辺で情報発信し、多くの人たちに見える農業も考え方の一つ。そういった意味で 2 年前に東京農業大学と包括連携協定を結んでいることをもっと有効活用できるのでは。また、どのような居住地域としたいのか、例えば環境やカーボンニュートラル、バイオ

マス、いわゆるスマートシティというようなことを謳っていくべき。この計画についての検討はここまでとなるのではないか。

- ・企業誘致が明記されているが、地場産業が活躍するために、地元企業や新規起業家、若者が活躍できるような場所を作っていただきたい。また、先進的なまちづくりでは、自動車よりも歩行者を優先している。車道と歩行空間をしっかりと確保し、ウォークアブルに楽しめるまちづくりをしていただきたい。車だと通り過ぎてしまうお店も、歩いていると目が向く。小規模な店舗の出店できるエリアもあるといい。車がないと生活できないといった考え方を変えていけるような交通の在り方を発信できるといい。
- ・ゾーニングについて、産業や商業をするには規模が小さいのではないか。小笠原寄り全体を産業等の拠点にすべき。本エリアから小学校まで30分程度かかるため、子育て世代は住まない。企業は2,000~5,000坪の面積が必要である。このゾーニングだと、参入企業は数社しか来られない。税金面でも、雇用面でももったいない。
- ・今回提示された南アルプス IC 周辺の産業ゾーンと住宅ゾーンは事務局からの一つの提案であり、決まり事ではないと思う。ゾーニング分けは必要であり、一律でイメージづくりをしていくべきである。世界遺産に登録されるようなまちは、まち全体が一つのストーリーやテーマで統一されている。
- ・P.3は誰も否定しようがない。委員としては具体的に中身どうするかといった方が意見を出しやすい。まちづくりにおいて、ゾーニングは必須であるが、中身の話がない中でゾーニングについて意見を出すことは困難である。ゾーニングは、テーマが決まり、具体的に何をやるかを詰めていく中で最後に検討し、地域のデータの的にも実現可能性があるのかも検討する。そこが決まってから、ネットワークでどのように結ぶのかといった流れだと思う。高度活用推進計画の成果物が何かわからないまま進んでいる。中身の話だけでなく、フレームもしっかり決めておかなければならない。

以上